Asada

環境を守る親切ツール

高圧洗浄機30/50G・GP

取 扱 説 明 書

高圧洗浄機 30/50GP

高圧洗浄機 30/50G

〔ご使用前には必ず本書をお読みください。〕

安全にご使用いただくために

このたびは、当社の高圧洗浄機をお買い上げいただきましてありがとうございます。

●本書は、お使いになる方に必ずお渡しください。
●ご使用前に必ず本書を最後までよく読み、確実に理解してください。
●適切な取り扱いで高圧洗浄機の性能を充分発揮させ、安全な作業をしてください。
●本書は取扱説明書と一緒に、お使いになる方がいつでも取り出せるところへ保管してください。
●高圧洗浄機が届いたときには次の点をご確認ください。
・ご注文の商品の仕様と違いはないか。
・輸送中の事故などで破損、変形はしていないか。
・付属品などに不足はないか。

万一不具合が発見された場合は、至急お買い上げの販売店、または当社支店、営業所にお申し付けください。

（本書記載内容は、改良のため予告なしに変更することがあります）

警告表示の分類

本書および本機に使用している警告表示は、次の３つのレベルに分類されます。

⚠ 危険

本機に接触または接近する使用者、第三者等がその取り扱いを誤ったり、その状況を回避しない場合、死亡または重傷を招く可能性が高い危険な状態。

⚠ 警告

本機に接触または接近する使用者、第三者等がその取り扱いを誤ったり、その状況を回避しない場合、死亡または重傷を招く可能性がある危険な状態。

⚠ 注意

本機に接触または接近する使用者、第三者等がその取り扱いを誤ったり、その状況を回避しない場合、軽傷または中程度の傷害を招く可能性がある危険な状態。または、本機に損傷をもたらす状態。

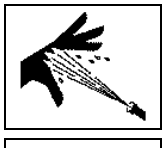
記号

爆発

火災

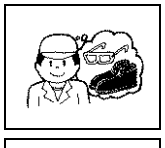
火傷

火気厳禁


高圧水

噴射

ガス注意


保護具着用

分解禁止

劇物

取扱説明書

その他

安全上のご注意

■ここでは、高圧洗浄機を使用するにあたり注意していただきたい一般的な注意事項を示します。

■作業要所での詳しい注意事項は、取扱説明書に記載しています。

⚠ 危険

爆発

◆燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止し2～3分間エンジンを冷却させてから、換気の良い場所で行ってください。

◆可燃性液体（シンナーなど）やガスのあるところで使用しないでください。

☆点火プラグなどのスパークが爆発や火災の原因になります。

火気厳禁

◆燃料の補給中、燃料タンクの近くではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。

☆誤って引火しますと、爆発、火災の原因になります。

◆燃料をこぼさないように注意し、規定レベル以下に燃料を補給し、燃料キャップを確実に締めてください。

火災

☆燃料キャップが締まっていないと本機が転倒したときに燃料がこぼれて危険です。

☆燃料がこぼれたときは、すぐに布きれなどで拭き取ってください。

◆酸素欠乏症や排気ガス中毒を防止するため、換気の良い場所に設置してください。

ガス注意

☆換気の悪い場所で使用すると、酸欠で窒息する恐れがあります。

☆絶対に排気ガスを吸わないようにしてください。

☆やむを得ず屋内で使用する場合には、充分な換気が行われていることを必ず確認してください。

◆修理技術者以外は絶対に分解しないでください。

◆改造は絶対に行わないでください。

分解禁止

☆異常な動作の原因となり、ケガや故障の原因となります。

◆薬剤（薬品）を混合して使用する場合は、ガソリン・シンナーなどの有機溶剤や、強酸性溶剤･強アルカリ性溶剤の他、劇物･毒物などは絶対に使用しないでください。

劇物

☆思わぬ事故を招く原因になります。特殊な薬剤（薬品）などを使用される場合には、必ず販売店または弊社に問い合わせのうえ安全を確認してから使用してください。

⚠ 危険

火傷

◆運転中や停止直後は、エンジン本体やマフラーなどが大変高温になっています。使用後の、部品交換・清掃・点検時は必ずエンジンを停止し2～3分間エンジンを冷却させてから行ってください。

☆火傷をする恐れがありますので絶対に触れないでください。

噴射

◆ガンを絶対に人や動物、電気器具類に向けないでください。

☆誤って噴射すると大変危険です。

☆本機や他の電気器具、電源などに噴射すると、ショートしたり感電する恐れがあります。

高圧水

◆ガンのトリガーを引いたままの状態で固定しないでください。

☆不意に電源が入ると高圧水が噴射され危険です。

◆ガラスなどの粉砕されやすい物に向けて噴射する場合は、充分注意して行ってください。

☆対象物が粉砕、破壊されて危険です。

⚠ 警告

取扱説明書

◆本書を事前によく読み、正しい取り扱い方法を充分にご理解のうえ、正しく操作してください。

◆本機を操作する前に、本書に記載されている「使用方法」の作業を行ってください。

◆間違いなく取り扱うため、各部の操作に慣れ、素早い停止方法を習得してください。

その他

◆エンジンに関する取り扱い方法は、付属のエンジンの取扱説明書にしたがってください。

◆本書、および弊社カタログに記載されている指定の付属品や別販売品以外は使用しないでください。

☆事故や故障の原因となります。

◆本機を落としたりぶつけた場合は、破損・亀裂・変形などがないか点検してください。

☆破損・亀裂・変形などがある状態で作業を行うと、けがや事故の原因となります。

⚠ 警告

高圧水

◆関係者以外は、作業場所に近付けないでください。特にお子様には十分注意し絶対に触らせないでください。

◆疲労・飲酒・薬物などの影響で作業に集中できないときは、操作しないでください。

◆本機を操作しないときは、乾燥した場所で子供の手が届かない、また鍵のかかる場所に保管してください。

◆結果の予測ができない、また確信の持てない取り扱いはしないでください。

◆本機を使用目的以外の用途には使用しないでください。

☆本機は、高圧洗浄機です。対象物の洗浄や配管内の洗浄に使用してください。

火災

◆噴射を停止してエンジンを切っても、ポンプ内や高圧ホースには残留した高圧水がありますので、一度トリガーを引いて内部の圧力を逃がしてください。

☆不意に、トリガーが引かれると高圧水が噴射して危険です。

◆エンジンの排気口をふさいだり、周辺に物を置かないようにしてください。

☆火災の原因になります。

保護具

◆ガンの取り扱いには充分注意し、不意の噴射による事故防止に心がけてください。

◆本機から離れるときや、保守・点検のときにはエンジンを停止し、スイッチをOFFにしてください。

☆思わぬ事故の原因になります。

◆目を保護するために、必ず保護メガネを着用してください。

☆作業中は、ゴーグルなど保護メガネを着用してください。噴射水が砂や泥などと一緒に跳ね返ってくることがあります。

◆作業場所は整理･整頓し、いつもきれいな状態で充分な明るさを保ってください。

☆作業環境が悪いと事故の原因になります。

⚠ 注意

◆泥水などは使用しないで、必ず清水を使用するようにしてください。
☆ポンプの故障やストレーナの詰まりの原因となります。

◆冬季など0℃以下になる場所では、必ず水抜きを行ってください。（本書のP.17「作業の終了」を参照）また、0℃以上の屋内に保管するようにしてください。
☆ポンプが凍結して損傷する恐れがあります。

取扱説明書

◆本書のP.18「保守・点検」に従い、各部の保守点検を行ってください。

◆本機の異常（異臭・振動・異常音など）に気づいたときは、ただちに運転を停止し、本書のP.19「修理を依頼される前に」を参照してください。また、むやみに分解せず点検や修理を依頼してください。
☆修理はお買い上げの販売店または、弊社支店、営業所へお申しつけください。

◆運転中、ポンプより少量の水が漏れることがありますが、1 分間に5滴程度までの水漏れは故障ではありません。
☆それ以上の水漏れが発生している場合には、販売店または、弊社へ連絡してください。

その他

◆長期間（30日間以上）使用しない場合は、燃料を完全に抜いて保管するか、必ず別販売品の「HD9108　ガソリン劣化防止剤」を使用して保管してください。この添加剤を使用することによって、そのままの状態でも最長15ヶ月間保管できます。（エンジンタイプのみ）
☆上記を実施せず保管すると、エンジンが始動しないことがあります。

◆圧力の調整は、必ず所定の範囲内で行うようにしてください。
☆上げ過ぎや下げ過ぎは故障の原因になります。

◆通常、エンジン始動後10秒間程度で吸水します。それ以上経過しても吸水しない場合は、異常が想定されますので運転を中止して原因を調べてください。
（P.19「修理を依頼される前に」を参照）

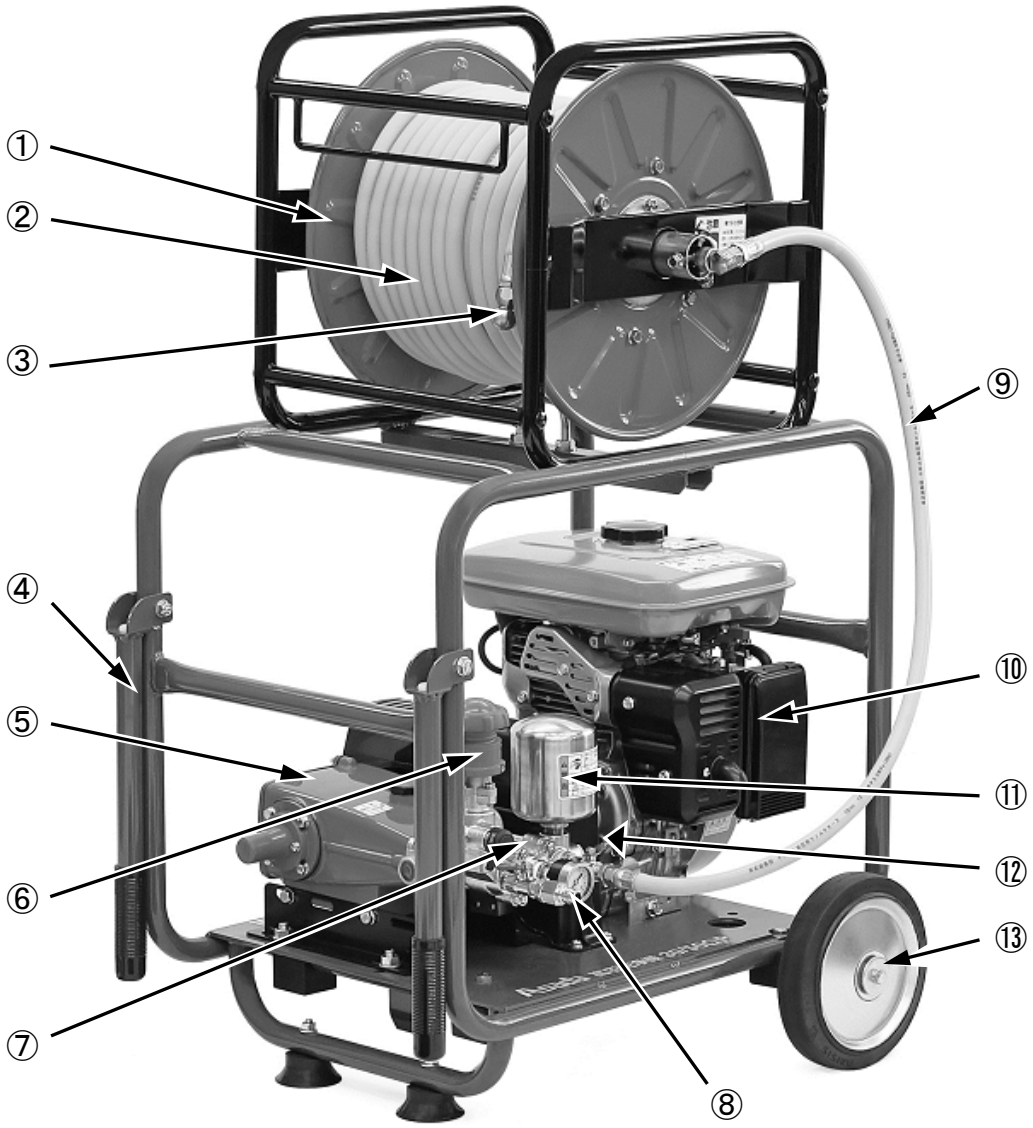
目次

安全にご使用いただくために ―――― P. 2
警告表示の分類 ―――― P. 2
記号 ―――― P. 2
安全上のご注意 ―――― P. 3
1．製品の構成
　1）各部の名称 ―――― P. 8
　2）仕様 ―――― P. 9
　3）標準付属品 ―――― P. 9
　4）別販売品 ―――― P. 9
2．使用方法
　1）ホースリールの組立 ―――― P. 10
　　（高圧洗浄機 30/50GP のみ）
　2）洗浄作業前の準備 ―――― P. 10
　　2-1）使用環境 ―――― P. 10
　　2-2）設置 ―――― P. 10
　　2-3）燃料の補給 ―――― P. 11
　　2-4）ホース類の接続 ―――― P. 12
　3）運転 ―――― P. 14
　　3-1）初めて使用する場合 ―――― P. 14
　　3-2）始動方法 ―――― P. 14
　　3-3）洗浄作業の方法 ―――― P. 15
　　3-4）作業の終了 ―――― P. 17
3．保守・点検
　1）エンジン関係の点検 ―――― P. 18
　2）ストレーナの点検 ―――― P. 18
　3）タービンガンおよび洗管ホースのノズル清掃 ―― P. 19
4．修理を依頼される前に ―――― P. 19

1．製品の構成

1）各部の名称

□本機には、警告ラベルが貼付してあります。安全確保のための説明が書かれていますので綺麗に保ち、はがれたり見づらくなった場合には弊社へ請求してください。そして、必ず同じ場所に貼付してください。



①	★ﾎｰｽﾘｰﾙ	⑥	調圧弁	⑪	ｴｱｰﾁｬﾝﾊﾞｰ
②	★洗管ﾎｰｽ	⑦	ｶﾞﾝ用ﾊﾞﾙﾌﾞ	⑫	洗管用ﾊﾞﾙﾌﾞ
③	★逆噴射ﾉｽﾞﾙ	⑧	吐出口(ﾜﾝﾀｯﾁｶﾌﾟﾗｵｽ)	⑬	ｷｬｽﾀ
④	ﾊﾝﾄﾞﾙ	⑨	★中間ﾎｰｽ	★印は高圧洗浄機 30/50GP のみに標準付属	
⑤	ﾎﾟﾝﾌﾟ	⑩	ｴﾝｼﾞﾝ		

2）仕様

製品名		高圧洗浄機 30/50G	高圧洗浄機 30/50GP
コード No.		HD3005G	HD3005P
エンジン	型式	ロビン　EH17-2B	
	定格出力	2.9kW	
	排気量	172mL	
	始動方式	リコイルスタータ方式	
	点火方式	トランジスタ式マグネット	
	回転数	1800min^{-1}	
ポンプ	吐出水量	30L/min	
	圧力	4.9MPa	
	給水可能温度	0～60℃	
	使用オイル	4サイクルエンジンオイル　SAE30 番,　10W-30	
	給水方式	自吸式	
	回転数	770 min^{-1}	
質量		49kg	58kg
大きさ		678×600×645mm （ﾚﾊﾞｰを倒した状態）	678×600×1045mm （ﾚﾊﾞｰを倒した状態）

3）標準付属品（★印は、高圧洗浄機 30/50GP のみ）

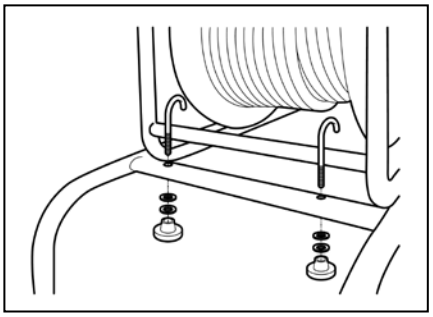
コード No.	部品名	個数
HD26003	高圧ホース 3/8×20m	1
HD26012	吸水ホース×3m	1
HD26013	余水ホース×3m	1
HD26018	ストレーナ組	1
HD26005	タービンガン	1
HD26019	吸水ホース用パッキン	1
HD26020	余水ホース用パッキン	1
HD26021	プラグ用パッキン	1

コード No.	部品名	個数
HD26022	カギスパナ	1
HD26023	オイラー	1
HD26008	★洗管ホース 3/8×30m	1
HD26009	★逆噴射ノズル 3/8	1
HD26001	★ホースリール	1
HD26016	高圧洗浄機取扱説明書	1
―	エンジン取扱説明書	1
―	エンジン工具セット	1

4）別販売品

コード No.	部品名	個数
HD26002	高圧ホース 3/8×10m	1
HD26004	高圧ホース 3/8×30m	1
HD26011	デュアルガン	1
HD26010	残水処理キット	1
HD9108	ガソリン劣化防止剤	1

2．使用方法



1）ホースリールの組立（高圧洗浄機 30/50GP のみ）

①ホースリールを本機のフレーム上部へ設置してください。

②付属されている金具を使用してホースリールを固定してください。

注意

その他

◆本機を不安定な場所に設置したまま、搭載しないでください。

☆本機が不安定な場所に設置されているときにホースリールを搭載すると、誤ってホースリールを落とす恐れがあります。

◆ホースリールの固定は確実に行ってください。

☆固定が緩いと洗浄作業中に本機の振動でホースリールが外れ、落下する恐れがあります。

2）洗浄作業前の準備

2-1）使用環境

□次の使用環境を充分考慮して、『設置』・『燃料の補給』・『ホース類の接続』を行なってください。

★直射日光があたる場所、雨中、内部に水が入りやすい場所では使用しないでください。

★本機は排気ガスを出します。密閉された部屋では使用しないでください。また、やむを得ず屋内で使用する場合には吸排気口（吸排気ファン）を取り付けてください。

★ガソリンなどの可燃物が存在する付近では使用しないでください。

★本機を設置して使用する場合には保守・点検が容易に行える場所に設置してください。

★使用する燃料は、必ず新鮮な自動車用レギュラーガソリンを使用してください。

★各ホース類や接続部に異常がないことを確認してから運転するようにしてください。

2-2）設置

注意

その他

◆換気が不充分な場所、オイルや燃料漏れのある場所、引火性ガスがある場所などには、絶対に設置しないでください。

◆本機は重量物です。フォークリフトなどで運搬するようにし、人力での上げ下げや吊金具での運搬は行わないでください。

□設置する床が丈夫で水平な場所を選定してください。
□キャスタに回り止めなどの処置を実施し、不意の移動がないようにしてください。

2-3）燃料の補給

A. ガソリンの補給

⚠ 注意

その他 ⚠

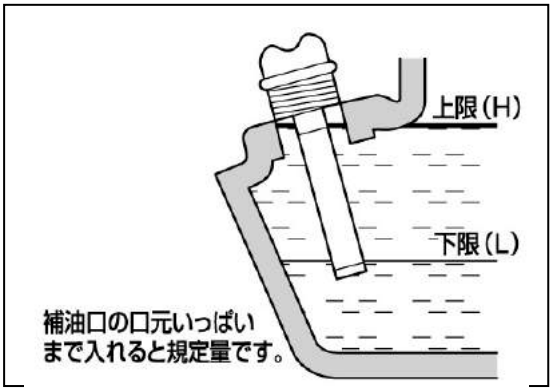
◆ガソリン補給後は、タンクキャップを確実に締めてください。
◆入れ過ぎは危険ですので規定レベルよりやや控えめに入れてください。

□本機のガソリンは、出荷時給油されていません。初めて使用する場合にはエンジンの取扱説明書にしたがって、ガソリンを給油してください。
★燃料は新鮮な自動車用レギュラーガソリンを使用してください。

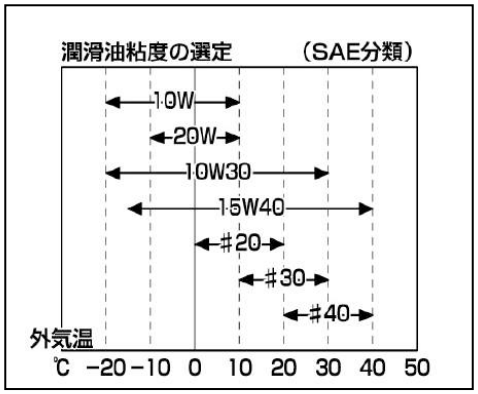
B. エンジンオイルの補給

□本機のエンジンオイルは、出荷時給油されています。初めて運転する場合には念のためエンジンの取扱説明書にしたがって、エンジンオイル量の確認（①）を行ってください。
★エンジンオイル量が不足しているときは、エンジンの取扱説明書にしたがって補給してください。
★エンジンオイルが汚れているときは、エンジンの取扱説明書にしたがって交換してください。
□出荷時に給油されているエンジンオイルは SAE10W-30 クラス品です。このエンジンオイルは、低温時(気温が−20℃)から高温時(気温が 40℃)まで広範囲で使用できますが、特に低温・高温地域でご使用の場合には、下表②を参考にエンジンオイルを選定してください。

①



②



C．ポンプオイル

□本機のポンプオイルは、出荷時給油されています。初めて運転する場合には、念のためポンプ背面にあるサイトグラス（①）でポンプオイルが給油されていることを確認してください。

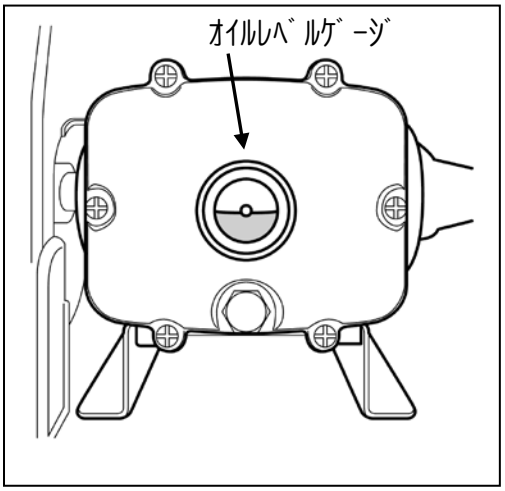
★オイルレベルゲージ（①）にて、ポンプオイルが不足しているようであれば補充してください。

★ポンプオイルが汚れているときは交換してください。

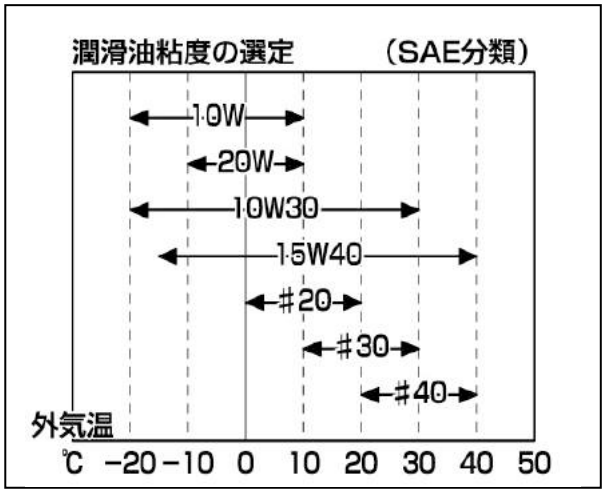
★ポンプオイルは自動車用エンジンオイルを使用し、適量は約 0.4Ｌです。

★出荷時に給油されているポンプオイルは、SAE10W-30 クラス品です。補充される場合には使用しているエンジンオイルと同じもの（②）を使用してください。

①



②



2-4）ホース類の接続

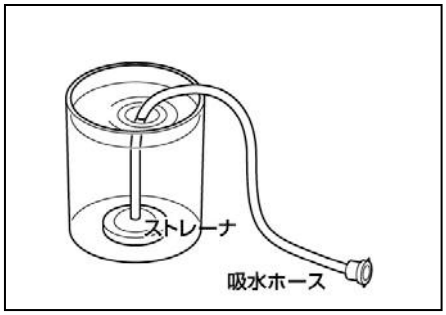
A. 吸水ホース他の接続

①吸水ホースを本体の給水口へ、余水ホースを本体の調圧弁へ確実に接続してください。（カギスパナを使用してください）

②吸水ホース金具にパッキンが入っていることを確認してください。

★パッキンが入っていないと吸水しません。

③ストレーナは、完全にタンク内へ沈めて空気を吸わないようにしてください。浮いていると空気を吸って充分な性能が発揮されません。



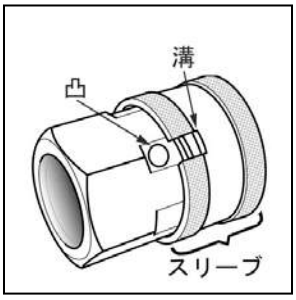
注意

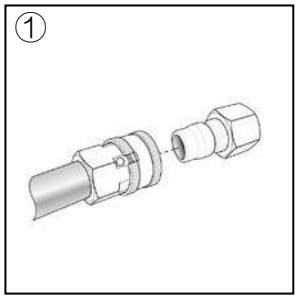
◆泥水などは使用しないで、必ず清水を使用するようにしてください。

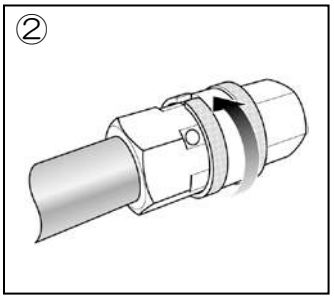
☆ポンプの故障やストレーナの詰まりの原因となります。

B. 高圧ホース・タービンガンの接続

①高圧ホースのメスカプラの溝と凸部分を合わせてスリーブを引き、ポンプ吐出口に挿入し、スリーブを戻します。
②スリーブを回し、カプラをロックします。
③ガン根元のメスカプラの溝と凸部分を合わせてスリーブを引き、高圧ホースに挿入し、スリーブを戻します。







⚠ 危険

高圧水

◆接続は確実に実施してください。
☆接続が不充分である場合、高圧水が噴出して危険です。

◆ロックは必ず実施してください。
☆不意に接続がはずれた場合、けがをする恐れがあります。

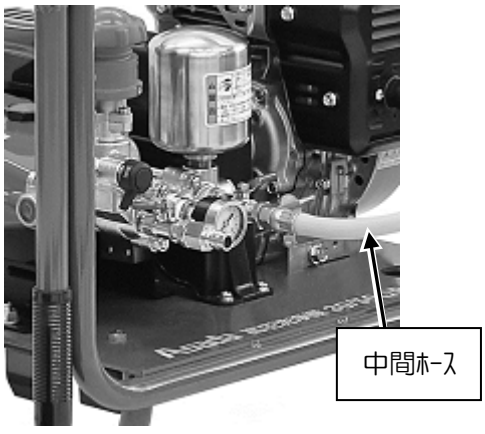
◆接続時に、各金具に取り付けられているパッキン類に損傷がないことを確認してください。
☆パッキン類に損傷がある場合、能力が発揮されないだけでなく、高圧水が噴出して危険です。

その他

◆高圧ホース、タービンガンを接続したまま強く引張らないでください。
☆接続部がゆるんで圧力漏れの原因になります。

C. 中間ホースの接続（高圧洗浄機 30/50GP のみ）

①中間ホースをポンプの洗管側吐出口へ接続してください。



2）運転

2-1）初めて使用する場合

□新しいうちは各部がなじんでいませんので、無理な使い方をすると洗浄機の寿命を短くします。運転開始後約２０時間までは慣らし運転期間として次のことを守ってください。

①始動後、約２～３分間はエンジンが温まるまで暖機運転を行ってください。

②慣らし運転期間は、エンジンに無理な負荷がかからないようにし、過負荷運転はさけてください。

③運転開始後約２０時間目のエンジンが暖かいうちにオイル交換を行ってください。

☆オイル交換はエンジンが暖かいうちに行わないと古いオイルが完全に排出されません。

④運転開始後約２０時間目のオイル交換後は５０時間ごとにオイル交換を行ってください。

2-2）始動方法

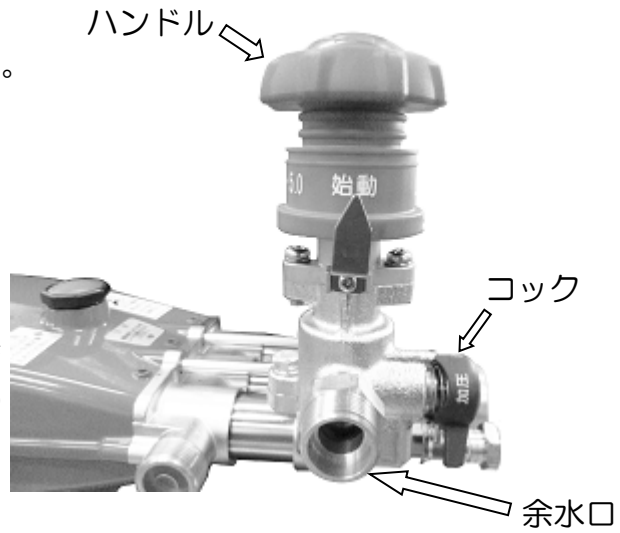
①バルブ（ガン用、洗管用）を閉じてください。

②ハンドルは始動位置に、レバーは減圧位置にし、圧力がかからないようにしてください。

③エンジンを始動させてください。

☆エンジンの始動方法はエンジンの取扱説明書にしたがってください。

④エンジンを始動させたら、余水ホースから余水がでていることを確認して、調圧弁根本のコックを「加圧」側へひねってください。



⚠ 危険

保護具

◆目を保護するために、必ず保護メガネを着用してください。

☆作業中は、ゴーグルなど保護メガネを着用してください。噴射水が砂や泥などと一緒に跳ね返ってくることがあります。

◆通常、エンジン始動後10秒程度で吸水します。それ以上経っても吸水しない場合は、異常が想定されますので運転を中止して原因を調べてください。（P. 19『修理を依頼される前に』を参照）

高圧水

◆作業前には、必ずタービンガン、高圧ホース、洗管ホースなどの各付属品を点検してください。

☆これらの付属品に損傷があった場合、高圧水が噴射されます。特に洗管ホースに損傷があった場合、作業中に先端部が破損し、パイプ内に部品が残る場合があります。

⚠ 危険

噴射

◆タービンガンを絶対に人や動物、電気器具類に向けないでください。

☆本機や他の電気器具、電源などに噴射すると、ショートしたり感電する恐れがあります。

◆タービンガンのトリガーを引いたままの状態で固定しないでください。

☆トリガーが引かれたままだと、不意に高圧水が噴射される場合があり危険です。

高圧水

◆ガラスなどの粉砕されやすい物に向けて噴射する場合は、充分注意して行ってください。

☆対象物が粉砕、破壊され危険です。

◆吐出口のボールバルブを開いた状態でエンジンを始動すると急にタービンガンや洗管ノズルから高圧水が噴射し、大変危険です。

2-3）洗浄作業の方法

A. 圧力調整の方法

①圧力を上げるには、ハンドルを右回転（時計方向）させ、圧力を下げるには、ハンドルを左回転（反時計方向）にします。

⚠ 危険

その他

◆規定圧力以上に上げないでください。（P. 9『仕様』参照）

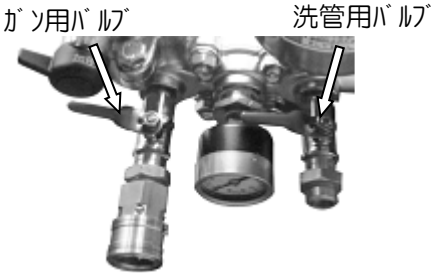
☆ポンプ、高圧ホース、洗管ホースなどの破損につながる恐れがあります。

B. タービンガンの使用方法

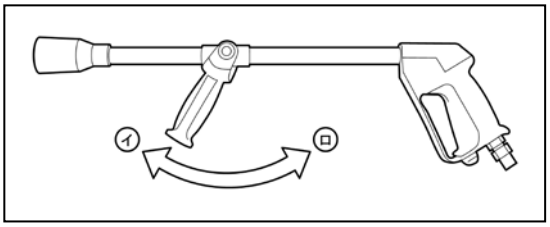
①吐出口の洗管用バルブを閉じてください。

②吐出口のガン用バルブを開いてください。（レバーと高圧ホースが同じ方向）

③トリガーを引くと噴射し、トリガーを戻す（放す）と噴射が停止します。



④レバーを操作することにより直噴射と円錐噴射のどちらかを選ぶことができます。
イ：円錐噴射　　ロ：直噴射

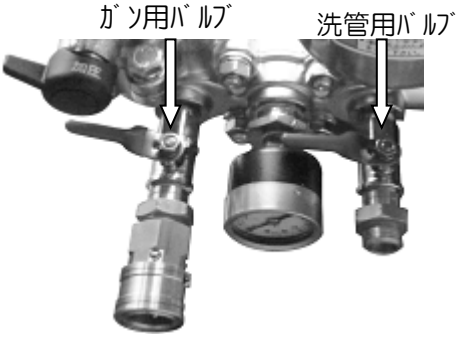


危険

その他

◆ターボガンを使用するときは、必ず洗管用バルブを閉じてください。
☆急に逆噴射ノズルから高圧水が噴射して、ケガをする恐れがあります。
◆ターボガンのトリガーを針金などで縛って、常にトリガーが引かれた状態にすることは大変危険ですので絶対に行わないでください。
◆トリガーを戻して噴射を停止させた場合には、安全のため必ずストッパーでトリガーをロックしてください。

C．洗管ホースの使用方法（高圧洗浄機 30/50GP のみ）



①吐出口のガン用バルブを閉じてください。
②逆噴射ノズルからの噴射は、吐出口の洗管用バルブの開閉によって行われます。
②ボールバルブを開く（レバーとホースが同じ方向）と噴射が始まり、ボールバルブを閉じる（レバーとホースが直角方向）と噴射停止します。
③ボールバルブを開く前に、洗管ホースの先端（逆噴射ノズル）を洗浄対象のパイプ中に１m以上挿入します。
④洗管ホースをしっかりと保持して、吐出口のボールバルブを開き噴射させます。
⑤洗管ホースを洗浄対象のパイプの中に挿入、前後させて洗浄をおこないます。

危険

高圧水

◆洗管ホースを使用するときは、必ずガン用バルブを閉じてください。
☆急にターボガンから高圧水が噴射して、ケガをする恐れがあります。

⚠ 注意

その他

◆洗管ホースを引き戻すときに、エルボなどの継手に引っかかることがあります。この場合に無理に引っ張ると先端の逆噴射ノズルが外れたり、ホースが破損する恐れがあります。引っかかった場合には、前進、後退を繰り返してください。

2-4）作業の終了

①タンクから吸水ホースと余水ホースを取り出し、一度トリガーを引きタービンガン、高圧ホース、洗管ホース内の残圧を抜いてください。

②低速状態で３０秒程度空運転を実施し、スイッチをＯＦＦにして停止させてください。

③エンジンのリコイルスタータのノブをゆっくり引き、元の位置まで戻してください。

④ポンプ吐出口から高圧ホース、吸水口から吸水ホース、余水口から余水ホースをはずしてください。

⑤長期間（１ヶ月以上）使用しない場合は、エンジン取扱説明書『長期保存のしかた』の項と合わせて次の作業を行ってください。

★長期保管のため、弊社別販売品『HD9108　ガソリン劣化防止剤』の使用をお勧めします。適量をガソリンタンクに添加し、よく攪拌して使用することによってガソリン抜き作業が不要になります。

⚠ 危険

高圧水

◆噴射を止めてエンジンスイッチをOFFにした後、必ず一度トリガーを引いてタービンガンと高圧ホース、洗管ホースの残圧を抜いてください。

☆不意にトリガーが引かれたときに高圧水が噴射され危険です。

◆洗浄作業中はエンジンを停止しないでください。必ずしばらくの間無負荷運転を実施してからエンジンを停止させてください。

☆洗浄作業中にエンジンを停止させると、急激にエンジンの温度が上昇し、寿命が短くなります。

その他

☆排気消音器内で、未燃焼のガソリンに引火して爆発音がでたり、炎が噴出する場合がありますが、異常ではありません。

◆空運転は30秒以上行わないでください。

☆ポンプが破損する恐れがあります。

3．保守・点検

□高圧洗浄機をいつも調子良く使い、長持ちさせるためには日常の手入れが大切になります。点検時間は下表にしたがって励行してください。●印は、技術や特殊工具が必要ですので、お買い上げの販売店や弊社支店、営業所にお問い合わせください。

定期点検表

項目＼運転時間	毎日	20時間ごと	50時間ごと	100時間ごと	200時間ごと	500時間ごと	1000時間ごと
各部ボルトナットの点検・締め付け	○						
ポンプの消耗品交換						●※3	
エンジンオイルの点検・補給	○						
エンジンオイルの交換		○※1	○※2				
ポンプオイルの点検・補給	○						
ポンプオイルの交換			○※1		○※2		
油漏れの点検	○						
エアクリーナの清掃		○　25時間ごと（ホコリの多い場所では早めに清掃する）					
ラインフィルタの清掃			○				
点火プラグの点検・清掃				○			
気化器の点検・清掃				●			
吸排気弁の隙間調整					●		
※1：　第1回目		※2：　第2回目			※3：　第3回目		

1）エンジン関係の点検

①エンジンオイルの点検・補給は、エンジンの取扱説明書にしたがってください。

★エンジンオイルが汚れていたり、少なかったり、品質の悪いオイルを使用するとエンジンの寿命が短くなる恐れがあります。常に良質できれいなオイルを規定量保つように心掛けてください。

②点火プラグやその他の点検・調整・交換はエンジンの取扱説明書にしたがって行い、何か異常がある場合にはお買い上げの販売店や弊社支店、営業所まで連絡をお願いします。

2）ストレーナの点検

□点検、清掃時は、ストレーナの金網を損傷しないよう慎重に行ってください。万一、損傷がある場合には、必ず新品と交換してください。

□長期間（1ヶ月以上）使用しなかった場合には、必ず使用前にストレーナを点検、清掃してください。

□下記の症状が発生した場合は、ストレーナを清掃してください。
- まったく吸水しない。または、断続的に吸水している。
- 圧力が規定値まで上昇しない。または、安定しない。

3）タービンガンおよび洗管ホースのノズル清掃

□ノズルは消耗品です。他の部分に異常がなくてもノズルが消耗することにより、圧力が低下することがあります。その場合にはノズルを交換してください。圧力が規定値の８５％以下になりましたら交換が必要です。

4．修理を依頼される前に

□高圧洗浄機の調子の悪いときは、修理を依頼される前に次の順序で点検を行ってください。点検された上で、なお異常のある場合や不安定な個所がありましたら、そのままの状態にしてお買い上げの販売店、弊社支店、営業所へご相談ください。

問　　題	原　　因	対　　策
吸水しない 吸水しにくい	・吸水ホースのストレーナが完全に水中に沈んでいない	・ストレーナを完全に水中に沈める ・清水を補給する（タンク内に）
	・ストレーナの目詰まり	・ストレーナを清掃する
	・吸い込み揚程が大きすぎる	・吸い込み揚程を１．５m以下にする
	・吸水ホースの接続不良	・ホースの接続を確実にする ・パッキンを確認する
	・吸水ホースの損傷	・吸水ホースを交換する
	・吸水、吐出バルブの作動不良	・バルブの点検、清掃を行い、必要であれば交換する
圧力が上がらない	・ストレーナの目詰まり	・ストレーナを清掃する
	・吸水ホースの接続不良	・ホースの接続を確実にする ・パッキンを確認する
	・吸水、吐出バルブの作動不良	・バルブの点検、清掃を行い、必要であれば交換する
	・プランジャパッキンの損傷	・プランジャパッキンを交換する
	・不適切なガン、ノズルの使用	・適切なガン、ノズルを使用する
	・ノズル穴の磨耗	・ノズルを交換する
	・圧力調整の不良	・圧力調整を行う
圧力が安定しない	・吸水ホースのストレーナが完全に水中に沈んでいない	・ストレーナを完全に水中に沈める ・清水を補給する（タンク内に）
	・ストレーナの目詰まり	・ストレーナを清掃する
	・吸水ホースの接続不良	・ホースの接続を確実にする ・パッキンを確認する
	・吸水、吐出バルブの作動不良	・バルブの点検、清掃を行い、必要であれば交換する
エンジンが始動しない	・エンジンの取扱説明書を参照してください	

●お客様メモ

後日のために記入しておいてください。
お問合せや部品のご用命の際にお役に立ちます。

製造番号　：
購入年月日：　　年　　月　　日
お買い求めの販売店

Asada アサダ株式会社

本　社／名古屋市北区上飯田西町3-60　TEL(052)911-7165　E-mail:sales@asada.co.jp

支　店／東京・名古屋・大阪
営業所／札幌・仙台・さいたま・横浜
広島・福岡

www.asada.co.jp

海外事業所
アサダ·タイランド社　(バンコク)
台湾浅田股份有限公司　(台　北)
アサダ·アーロンコ マシナリー社　(クアラルンプール)
アサダ·ベトナム社　(ホーチミン)
アサダ·インド社　(ムンバイ)
上海浅田進出口有限公司　(上　海)
アサダ USA　(オレゴン州·ユージン)

工　場
犬山工場　(愛知県·犬山市)
アサダ第一精工株式会社　(松　阪　市)
アサダ·マシナリー社　(バンコク)

Ver.03　HD26016　A